

令和元年6月21日現在

機関番号：37101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02596

研究課題名(和文) 日本所蔵『西廂記』孤本の調査と研究

研究課題名(英文) A Study of a Unique Copy of "Xixiangji" Owned by Japan

研究代表者

黄冬柏 (HUANG, DONGBAI)

九州共立大学・経済学部・教授

研究者番号：70315026

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本に所蔵されている『西廂記』孤本の特徴とその日本に伝わった歴史的な背景について調査と研究を行うものである。国立公文書館内閣文庫に所蔵されている『重刻元本題評音釈西廂記』と『重校北西廂記』、及び石川武美記念図書館成篁堂文庫に所蔵されている『新刻考正古本大字出像釈義北西廂』の実見調査を実施し、中国の関連文献の蒐集考察を加えることによって、これらの版本の形式と内容の特徴を明らかにしたと同時に、日本に伝来された経緯について検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本に所蔵されている『西廂記』孤本の実見調査を通して、明刊本『西廂記』の刊行と日本への伝来という角度から、『西廂記』研究に新たな知見を導き出したものである。中国本土ですでに失われた『西廂記』孤本の特徴を明らかにし、また、日本であまり知られていない『西廂記』の刊行者や刊行と伝播に関する資料を発掘することによって、日本と中国における『西廂記』研究に新たな一石を投じる重要な役割を果たせると同時に、近世の日中文化交流という視点においても、大いに有益な成果をもたらすことができる。

研究成果の概要(英文)： In this study, the author attempts to clarify features of a unique copy of "Xixiangji (西廂記)" owned by Japan and the historical background of how it was brought to Japan. The author actually looked at not only "Chongke Yuanben Tiping Yinshi Xixiangji (重刻元本題評音釈西廂記)" and "Chongjiao Beixixiangji (重校北西廂記)" owned by Naikakubunko of National Archives (国立公文書館内閣文庫) but "Xinke Kaozheng Guben Dazi Chuxiang Shiyi Beixixiang (新刻考正古本大字出像釈義北西廂)" owned by Seikidobunko of Ishikawa Takeyoshi Memorial Library (石川武美記念図書館成篁堂文庫), and made clear format of these publications and features of their contents by giving careful consideration to related publications he found in China. He also studied how these publications had been brought to Japan.

研究分野：中国文学

キーワード：西廂記 元雜劇 明刊本 書誌学 内閣文庫 成篁堂文庫 漢籍 戯曲

1. 研究開始当初の背景

(1) 『西廂記』の研究は、主に元雜劇『西廂記』の作者考証、版本流変、内容鑑賞、人物分析や、元雜劇と『西廂記諸宮調』との比較研究、さらには『西廂記』の現代京劇と地方劇の改編などの問題をめぐって数多くの考察がなされ、多大な成果を挙げてきたが、まだ研究すべき課題も多く残されている。申請者は、先学の優れた研究に基づいた上で、未だに残された課題をめぐって、全体的な中国文学史における『西廂記』の位置づけと具体的な個々の作品の考察から、『西廂記』の流伝と変化の歴史を研究してきた。その中で、「西廂故事の流伝と『伝奇』」(『日本中国学会報』第50集、1998年10月)、「金聖歎とその『西廂記』批評」(九州大学文学部『文学研究』第97輯、2000年3月)、「『西廂記』における雅俗の融合」(『九州中国学会報』第40号、2002年5月)、「従明清資料看『西廂記』的搬演」(『2004年漢学国際学術研究会論文集』、2005年12月)、「伝奇から話本へ 鴛鴦物語の変遷を中心に」(九州大学中国文学会『中国文学論集』第37号、2008年12月)、「従民歌時調看『西廂記』在明清の流伝」(中山大学中国非物質文化遺産研究中心『文化遺産』2011年第1期、2011年1月)、「建陽熊龍峯刻書考」(『九州中国学会報』第49巻、2011年5月)、「日本内閣文庫所蔵『熊龍峯四種小説』考論」(『中正大学中文学術年刊』総第17期、2011年6月)、「建陽熊龍峯刻書再考」(『九州中国学会報』第51巻、2013年5月)、「従明刊『西廂記』序跋看戯曲理念」(復旦大学中国学研究中心『中国学研究』第17輯、2014年8月)、「『熊龍峯四種小説』再考」(南京大学域外漢学研究所『域外漢籍研究集刊』第10輯、2014年10月)などのテーマを中心に具体的に考察した。

(2) 申請者は、『西廂記』の変遷の歴史を取り組んできたが、日中両国にある『西廂記』に関する研究資料を未だ活かしきれないと痛感する。そこで本研究は、先学の優れた研究成果に基づきつつ、日本に所蔵されている『西廂記』孤本の実見調査を通して、明刊本『西廂記』の刊行と日本への伝来という角度から、『西廂記』研究に新たな知見を導き出そうとするものである。

2. 研究の目的

(1) 『西廂記』の研究は、中国文学における最も重要な研究テーマの一つである。本研究課題で取り上げる日本所蔵『西廂記』孤本の調査と研究とは、日本に所蔵されている『西廂記』孤本の特徴とその日本に伝わった歴史的な背景について調査と研究を行うものである。

(2) 本研究は、国立公文書館内閣文庫に所蔵されている『重刻元本題評音釈西廂記』と『重校北西廂記』、及び石川武美記念図書館成篋堂文庫に所蔵されている『新刻考正古本大字出像釈義北西廂』の実見調査を実施し、中国の関連文献の蒐集考察を加えることによって、これらの版本の形式と内容の特徴を明らかにすると同時に、日本に伝来された経緯について究明することが目的である。

3. 研究の方法

(1) 国立公文書館内閣文庫に所蔵されている明万曆20年(1592)に熊龍峯刊行『重刻元本題評音釈西廂記』の実見調査で原本により版匡のサイズ及び本文・題評・挿絵などを確認し、他の版本と異同がある箇所写真に撮った。また、上海図書館古籍閲覧室で万曆8年(1580)徐士範刊行の『重刻元本題評音釈西廂記』を確認した上で、全本を複写した。内閣文庫所蔵の『重刻元本題評音釈西廂記』は建陽書林熊龍峯の刊行したものと推定される。明代の三大刊行中心の中で、建陽の書林は全国一の売上を誇っており、特に明末にその最盛期を迎え、刊行から販

売まで盛んに行っていた。平成 29 年 3 月に福建省建陽に赴いて、当地の資料館や図書館に所蔵されている地方誌や類書から関連資料を閲覧し、建陽博物館余館長、書坊文化センター李所長などの関係者の聞き取り調査を行い、『書坊郷誌』『建陽刻書史』などの関連資料を手に入れることができた。

(2) 石川武美記念図書館成篁堂文庫に所蔵されている明・万暦 7 年(1579)に金陵胡氏少山堂刊行の『新刻考正古本大字出像釈義北西廂』は、現存する明刊本の中で『新刊奇妙全相注釈西廂記』(弘治 11 年、1489)に次いで二番に古いものであり、しかも孤本であるから、複写や翻刻を厳しく禁止されている。平成 29 年 8 月下旬に、成篁堂文庫にて原本を実見し、その版式と内容、及び原文に附する評点などを確認した。また、その『新刻考正古本大字出像釈義北西廂』は、金陵(南京)胡少山の少山堂刊に刊行されたものである。明代の三大刊行中心の一つである金陵は、明末に商業出版の「坊刻」が盛んに行われていた。金陵刊行の書籍が、品質の高さによって好評を受けており、海域を経て日本にも到来したと思われる。明代金陵の名門である唐氏・周氏が経営する富春堂・万卷楼などの有名な書林を中心に、刊行文化の発展に大きな役割を果たしたことはよく知られているが、胡氏とその少山堂については、あまり知られていない。平成 30 年 3 月中旬に、この成篁堂文庫蔵本の刊行地であった南京に赴いて、百年の歴史が有する南京図書館に所蔵される地方誌などから、その当時の出版状況と胡氏の刊行活動に関する資料を調査した。

(3) 国立公文書館内閣文庫に所蔵されている明・万暦 26 年(1589)に陳邦泰刊行の『重校北西廂記』は、『増訂明刊元雜劇西廂記目録』(傳田章、汲古書院、1979 年)と「日本所蔵『西廂記』版本知見録」(黄仕忠『戲曲文献研究叢稿』所収、国家出版社、2006 年)に書名・版式・行数などが簡略に紹介されたもの、その内容と形式の特徴が究明されていない。本研究は、黄仕忠等編『日本所蔵稀見中国戲曲文献叢刊』(広西師範大学出版社、2006 年)第一輯所収『重校琵琶記附重校北西廂記』の影印本を参照し、平成 31 年 2 月に内閣文庫にて原本を実見し、その版式と内容などを確認した。また、その『重校北西廂記』は、秣陵(即ち金陵、今南京)陳邦泰の継志齋に刊行されたものである。平成 30 年 3 月の現地(南京)調査で入手した資料に基づいて、刊行者であった陳邦泰の刊行活動も併せて考察した。

4. 研究成果

(1) 内閣文庫所蔵の『重刻元本題評音釈西廂記』について調査研究を行い、同じ書名『重刻元本題評音釈西廂記』である、万暦 8 年(1580)刊の徐士範本および万暦 29 年(1601)刊の劉龍田本(中国国家図書館蔵、『古本戲曲叢刊初集』に所収)との比較考察を通して、三種刊本の版式や表現の異同と、内閣文庫蔵本の特徴及び『西廂記』流伝に果たした役割について解明した。また、『重刻元本題評音釈西廂記』をはじめとする戲曲や小説の刊行と流伝の実態、そして幾つかの版本が中国本土で失われていった原因を明らかにした。以上の調査研究の成果として、「内閣文庫蔵『重刻元本題評音釈西廂記』考」と題して、平成 29 年 3 月に九州大学で研究発表を行い、論文をまとめて投稿した。

(2) 成篁堂文庫所蔵の『新刻考正古本大字出像釈義北西廂』について、熊龍峯刊の『重刻元本題評音釋西廂記』及び徐文長刊の『重刻訂正元本批點画意北西廂』との比較考察を通してその特徴を明らかにした。調査研究の成果として、「『西廂記』評点本について」と題して、平成 30 年 4 月 28 日に九州大学にて研究発表を行った。また、平成 30 年 5 月 13 日に九州中国学会で「成篁堂文庫所蔵の孤本『西廂記』考」という題目で研究発表を行った後、それぞれ論文を

まとめて投稿した。

(3) 国立公文書館内閣文庫所蔵の『重校北西廂記』については、その版式と内容などを確認しながら、『新刊奇妙全相註釈西廂記』(弘治本)との比較考察を通してその特徴を明らかにした。調査研究の成果として、「内閣文庫蔵『重校北西廂記』について」と題して、研究発表を行い、論文をまとめて投稿する予定である。

研究期間全体を通じて実施した研究の成果としては、内閣文庫所蔵の『重刻元本題評音釈西廂記』と成簣堂文庫所蔵の『新刻考正古本大字出像釈義北西廂』について、投稿した論文は国内と中国の学術誌に掲載した。また、単著『東瀛論西廂 「西廂記」流変叢考』が中国の商務印書館から2018年4月に上梓された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者には下線を引く)

[雑誌論文](計6件)

黄冬柏、成簣堂文庫所蔵の少山堂本『西廂記』考、『九州中国学会報』第57巻、査読有、2019年、pp.31-45

黄冬柏、試論宋代西廂故事的流伝、『中国学研究』(復旦大学中国学研究中心)第19輯、査読有、2019年、pp.34-45

黄冬柏、日本成簣堂文庫蔵《西廂記》孤本考、『國際漢学研究通訊』(北京大学出版社)第18期、査読有、2019年

黄冬柏、日蔵『西廂記』孤本考 以少山堂本・忠正堂本為中心、『2019年第十八届中国古代小説戲曲文献及数字化國際研討会論文集』、査読有、2019年

黄冬柏、三種『重刻元本題評音釋西廂記』異同考、『中国文学論集』(九州大学中国文学会)第46号、査読有、2017年、pp.94-110

黄冬柏、日本内閣文庫蔵『重刻元本題評音釈西廂記』考、『中国文学研究』(復旦大学中国古代文学研究中心)第29輯、査読有、2017年、pp.130-165

[学会発表](計5件)

黄冬柏、日蔵『西廂記』孤本考 以少山堂本・忠正堂本為中心、2019年第十八届中国古代小説戲曲文献及数字化國際研討会、2019年

黄冬柏、内閣文庫蔵『重校北西廂記』について、九州大学中国文学会、2019年

黄冬柏、成簣堂文庫所蔵の孤本『西廂記』考、九州中国学会、2018年

黄冬柏、『西廂記』評点本について、九州大学中国文学会、2018年

黄冬柏、内閣文庫蔵『重刻元本題評音釈西廂記』考、九州大学中国文学会、2017年

[図書](計3件)

黄冬柏、東瀛論西廂 「西廂記」流変叢考、商務印書館、p353、2018年

査屏球・黄冬柏他、梯航集 日蔵漢籍中日學術對話録、上海古籍出版社、pp.393-438、2018年

黄冬柏、海内外中国戲曲史家自選集 福満正博卷(翻訳) pp.1-114、大象出版社、2018年